

10 課題解決への参画

取組事例
44

森林ESDから学ぶ私たちの目指す持続可能な社会
～ Think Globally, Act Locally. ～

三重大学教育学部附属中学校 1 年生



フィールドワークで森の木を観察している様子

実施時期	令和 5 年12月
実施場所	吉田本家山林部森林及び (株) ひのきや研修室
時間	5 時間
対象・人数	中学 1 年生 37人
講師	森のせんせい 1 人（吉田正木氏）
備考	独自事業

めざす姿	10 課題解決への参画（01 遊び・楽しむ、02 親しむ、03 興味・関心を持つ、04 違いに気づく、06 知識・技能を身に付ける、08 地域の課題に目を向ける、09 地球の課題に目を向ける）
ねらい	森の価値を高めるために自分にできることを考え、仲間と議論する
内容	・ SDGs No.15「陸の豊かさを守ろう」に基づき、大紀町の森の様子や林業、生息する動植物について学ぶ ・ フィールドワークでハウノキや山椒など身近な植物を探し、その特徴を学ぶ ・ 世界規模で森林が減っている中、地域や日本の木材の流通や林業の課題を考える ・ 私たちの生活と密接に関わっている森林・林業に対し、身近なところから何ができるのかを考える
学習指導要領との関連	探究的な学習（中学校総合的な学習の時間） 国際社会の中の日本・森林資源と木材生産・森林資源と環境（中学校社会科）、二酸化炭素排出量の変化・光合成・共通点と相違点（中学校理科）、持続可能な社会の構築（中学校技術・家庭）、自然を大切にする意義（中学校道徳）、自然体験・職場体験（中学校総合的な学習の時間）、社会貢献（特別活動）



森の手入れの必要性について説明を受けている様子



木材の流通や林業についての講義の様子

生徒の反応	- 三重県各地から通う附属中の生徒にとって実際に森の中に入り自然に触れる機会を持つことは貴重な体験になりました。ワークショップでは理科で学習した内容を話す生徒もいたり、見慣れない植物に興味を持って触ったりする生徒がいました。今回の学習を通して、総合学習で学んできたSDGsがより軽視できない問題であることも再確認できました。 - 世界規模での森林伐採が進む中、日本や三重県の森林を守っていくために問題点を自分事として捉え各個人で考えてまとめたことを今後、海の学習に行った生徒たちと共有し、全体で内容を把握して報告していきます。
学校のコメント	自然を保護しながら三重県の林業を支える吉田さんからワークショップと講義をしていただきました。林業とはただ単に木を育てて伐採するというだけでなく、地元の産業を支え、人と動物の共存を考えながら過去から守られてきた大切な自然を保護し、私たちの生活により身近に関わっていることも学ぶことができました。今回の学習を通して“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて、自ら考え行動できるよう探究学習を進めていきたいです。